

講座

事前申込

- ① 10月29日(日) 図案教育のはじまりと発展 神谷 蘭(当館学芸員) 午後1時30分～3時 定員：各回36名 参加費：無料 ※保育サービスあり
- ② 11月5日(日) 「宮内省御用達」をつとめた高島屋 高井 多佳子(高島屋史料館研究員) [事前申込方法] 下記の申込期間に当館ホームページから申してください。(ホームページからの申込が難しい場合は電話でも受付いたします。) ①10月3日～9日 ②10月10日～16日 ③10月17日～23日 ※申込多数の場合は抽選とさせていただきます。
- ③ 11月12日(日) 近代の大札と有職故実の展開 田中 潤(学習院大学史料館研究員)

ギャラリー展

観覧無料

みんなでいろどる「ある図案家の仕事」

特別展「ある図案家の仕事」の展示資料・図案帖『國華』に収められているモチーフを「ぬり絵」シートにしてホームページで公開。みんなから寄せられた個性あふれる「ぬり絵」彩色作品を4階ギャラリーにて展示します。その場で「ぬり絵」が楽しめるコーナーも開設。みんなで「ある図案家の仕事」をいろどってみませんか。

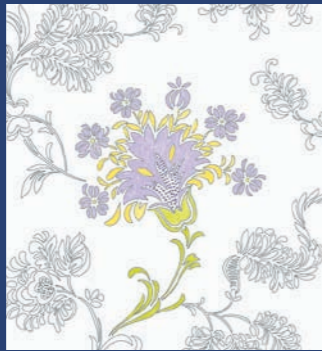
10月14日(土)～12月10日(日)

展示作品募集

あなたのセンスで彩色した「ぬり絵」作品をどしどしご応募ください。

作品応募最終締切 11月15日(水)

▶10月4日(水)までの応募者の中から50名様を、特別展「ある図案家の仕事」にご招待いたします。詳細はホームページにてご確認ください。



ワークショップ

申込不要

型染め ミニワークショップ
～特別展バージョン～

はがきサイズの「型染め(ステンシル)」で染色にふれてみるミニワークショップ。この秋は特別展で展示されている図案を基にした型紙で型染めを体験いただけます。

10月21日(土)・22日(日)
11月4日(土)・19日(日)
12月2日(土)・3日(日)
午前10時～午後3時30分
定員：同時参加6名まで 材料費：100円
※小学3年生以下は保護者同伴



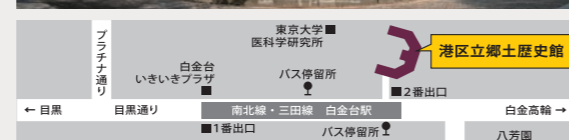
観覧料 特別展のみ 大人 400円(320円) 小・中・高校生 200円(160円)
常設展セット 大人 600円(480円) 小・中・高校生 200円(160円)
※()内は10名以上の団体料金
※港区在住・在学の小・中・高校生、港区在住の65歳以上の方、港区在住の障害者とその介助者(1名)の観覧料は無料(証明ができるものをご持参ください)
※11月3日(金・祝)は港区民無料公開日(港区在住の証明ができるものをご持参ください)

開館時間 午前9時～午後5時(土曜日のみ午後8時まで) ※入館受付は閉館の30分前まで

会期中休館日 10月19日(木)・11月16日(木)

港区立郷土歴史館

〒108-0071 東京都港区白金台 4-6-2 ゆかしの杜内
電話 03-6450-2107 minato-rekishi.com



●東京メトロ南北線・都営三田線 白金台駅 2番出口 徒歩1分
●都営バス・東急バス 白金台駅前停留所 徒歩1分
※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

※混雑時には入場制限を行う場合があります。また、会期等が変更となる場合がありますので、ホームページにて最新情報をご確認ください。



令和5(2023)年10月14日(土)～12月10日(日)

港区立郷土歴史館

〒108-0071 東京都港区白金台 4-6-2 ゆかしの杜内
電話 03-6450-2107 minato-rekishi.com



港区に長年居住した中山宜一は、富山県立工芸学校図案絵画科一期生として入学し、卒業後は上京して図案家として活動します。中山が晩年に自身で作成した図案帖『國華』には、高島屋から委嘱を受けて手掛けた宮中の室内装飾、お好み裂、貞明皇后・香淳皇后の桂やドレスなどの図案、下図、写生画が収められており、当時の宮中の染織品にかかわるデザインが生まれる過程を知ることができます。この『國華』を中心に、ひとりの人物が図案教育を受け、図案家として仕事をしていく過程を、同時代の動向もふまえながら紹介します。

図案帖『國華』をじっくり見せます

綴じを外し、1ページずつ展示します。縦78cm・横見開き110cmという図案帖としては異例の大きさにもご注目ください。



『國華』 昭和29(1954)年 当館蔵



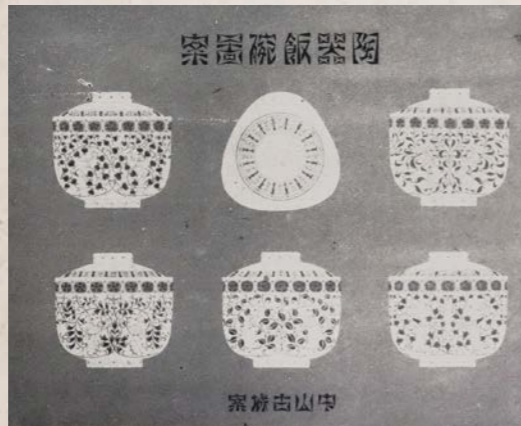
銀モール縹縫取り
御服第三号(部分)
大正時代



中山の図案と一致する洋
服裂地(部分) 大正時代
高島屋史料館蔵

港区に住んだひとりの図案家の人生を追います

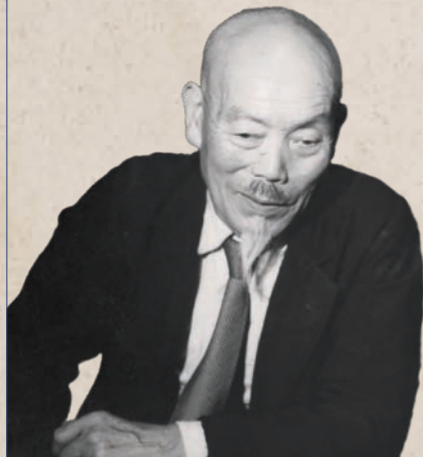
西新橋の地で図案家として活動した中山が手掛けた仕事や家族に向けた作品を紹介します。



中山古城 陶器飯碗図案(『農商務省第4回図案及応用作品
展覧会図録』より) 大正5(1916)年 国立国会図書館蔵



中山古城 (雛図掛軸)
昭和16(1941)年頃 個人蔵



中山宜一(号・古城)

明治17(1884)年、富山県高岡市で誕生。富山県立工芸学校卒業後、東京高等工業学校教授・井出馬太郎に師事。明治40年頃高島屋東京支店に勤め、同43年に独立自営。大正時代末～昭和時代初期にかけて、主に宮中の染織品の図案の仕事を受ける。昭和29(1954)年、自身の仕事をまとめた図案帖『國華』を作成。同45年没。

第1章 図案教育のはじまりと発展

富山県立工芸学校と、東京高等工業学校・東京高等工芸学校を中心に、図案科での教育の様子を紹介します。



富山県立工芸学校職員及尚美会役員諸氏(『尚美会誌』第一号口絵より)
明治35(1902)年 高岡市立中央図書館蔵

第3章 図案帖『國華』をひもとく

『國華』に収められた図案と宮中ゆかりの品々を、「室内装飾・さまざまなスケッチ」「貞明皇后のお好み裂」「洋服地と有職裂地」の3つのテーマに分けて紹介します。



鵝銅形ボンボンニエール
明治～大正時代 個人蔵



洋服裂地(部分) 大正時代
高島屋史料館蔵



『國華』より(鵝銅の図) 大正時代



お好み裂地(部分)
大正時代 個人蔵

第2章 図案家へのステップ

図案家たちの作品発表の場である懸賞図案や図案集、展覧会について紹介します。



第2回店員募集図案 秋又八冬向キ 明治31(1898)年 株式会社千總蔵

第4章 皇后のお召し物

中山が手がけた図案がどのような形の衣裳となるものであったのか、参考資料として、貞明皇后と香淳皇后にゆかりの桂、小袖、ドレス類を紹介します。



萌黄地桜花雀文刺繍小袖 大正時代 圓通寺蔵

